



新特急「かんぱち」「いちろく」

久大線導入、名称決まる

JR九州は26日、来年春から別府・由布院―博多間の久大線に導入する新しい観光特急の名称を「かんぱち・いちろく」に決めたと発表した。明治、大正時代に久大線の開通に尽力した麻生観八、衛藤一六の両氏から名付けた。

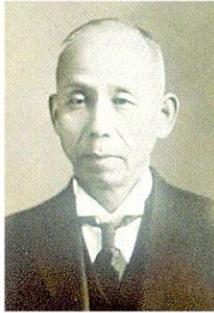
長で1906年から20年以上、久大線建設を求める運動を続けた。衛藤氏は旧大分県農工銀行頭取。大正期に由布院盆地内を通る現ルートの実現に力を注いだ。盆地入り口のカーブは現在も「一六曲がり」と呼ばれている。

列車名は博多発が「かんぱち」、別府発が「いちろく」となる。
麻生氏は舟来屋（現八鹿酒造）九重町の3代目社

3両編成（1両はラウンジ）で全席グリーン席。1日に片道1便運行し、木曜日には運休する。別府―博多間を約5時間かけて走る。

車両デザインやダイヤ、料金などは調整中という。運行開始の時期は大分、福岡両県への誘客を図る「デスティネーションキャンペーン（DC）」に合わせた。同社広報部は「列車や背景も知ってもらえるのではないかと話している。」

（松尾祐哉）



「かんぱち」の由来
となった麻生観八氏



「いちろく」の由来
となった衛藤一六氏

〔問①〕新しい特急列車の名称となったモデルの人物は誰ですか？
2人、挙げてみよう。

〔問②〕この列車はどのようなところを走るのでしょうか。